

伝える、励ます、学ぶ被災地方言会話集

文字化の基準・記号の見方

1. 文字化の概要

文字化に当たっては、方言を文字化したものと、それを共通語訳したものを上下段に並べて表記した。方言は上段にカタカナで表記し、共通語訳は下段に漢字かなまじり表記で記してある。なお、基本的には文節で分かち書きをしてある。

方言音声 → 上段、表音的カタカナ表記
共通語訳 → 下段、漢字かなまじり表記

2. 発話者の表示

① 発話の単位

1人の話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発話を1発話とした。(発話権が交替するまで) あいづちは別に処理した。

② 発話記号

話者、調査者など、談話の場にいる人物にA、B、C、D～のようにアルファベットで記号をつけてある。

③ 発話番号

発話の通し番号を、話者記号の前に入れてある。

例：001A：～ 012A：～ 123A：～

3. 固有名詞

個人が特定できるような固有名詞、話者名及び一般の人名についてはアルファベットに置き換えてある。

話者 → 「A」「B」などの話者記号を使用

第三者 → 「X」を使用。複数出てくる場合は半角数字を後ろに付けて区別した。

例：X1 チャン、X2 サント～

なお、歴史上の人物、有名人、話者の個人情報に関係しない会社名その他の固有名詞、地名についてはそのまま記載した。

4. 文字表記の基準

【方言文字化部分】

表音的カタカナ表記を用いた。音声の方言的特色（キの口蓋化、母音の無声化など）は、特に書き分けることはしていない。

長音：「ー」 例：ソーナンダ（×ソウナンダ）

助詞：「は」→「ワ」 例：アレワ ナンダガ

「を」→「オ」 例：コレオ モッテゲ

「へ」→「エ」 例：ガッコーエ イグ

鼻濁音：半濁点を使用してある。

ガ行鼻濁音「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」

入り渡り鼻音は上付き文字を使用「ンダ」

中舌音：どちらかの音声の近いほうを採用した。

例：スに近いシ →「シ」

シに近いス →「ス」

「ア」と「エ」の中間の音については「エア」「アエ」という表記も許容した。

例：「ネア（ない）」「ナエ（ない）」

四つ仮名：「ジ」「ズ」に統一した。（「ヂ」「ヅ」は使用していない）

例：「アエズ（あいつ）」

【共通語訳部分】

意識はできるかぎり行わず、基本的に方言の直訳とした。

漢字かなまじり表記を用いてある。

助詞：ないと読みにくい場合のみ適宜補った。

？：ないと疑問文と判断しにくい場合のみ適宜補った。

長音：感動詞などにおいては、基本的に長音記号「ー」を使用した。

5. 記号の見方

【方言文字化部分】

- 。(句点) : ポーズがあり、意味的に1つのまとまりを持つ文の最後につけた。
- 、(読点) : 基本的に息をついた箇所またはポーズのある箇所に付してある。
読みやすさを重視して付した部分もある。
- () : あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。
例 : ソーヤッテ ムガシワネー (B ンダネー) ヤッテダンダー。
- { } : 笑い声、咳払い、間などの非言語音。
例 : {笑} {咳} {手を叩く音}
- ~~~~~ : 聞き取れない部分には波線を引いた。
例 : オチャズケノ ~~~~~
聞き取りが不十分な部分は、聞こえた音を記した箇所に波線を引いてある。
例 : コエズカレデ
- _____ : 発話が重なっている部分には、普通の下線を引く。
あいづちは発話を () に入れ、重なっている部分には下線を引いた。
例 : モラッテクダサイ (A ソーダ) (B モラテ)
- ===== : 発話が重なり、かつ聞き取れない部分には、二重下線を引いた。
例 : アイズ ===== (B ホンテ) オドゲデネーゴド
発話が重なって聞き取りが不十分な部分は該当箇所に二重下線を引いた。
例 : アイズ キタナー (B ホンテ) オドゲデネーゴド
- [] : 注記。[] 内の数字は注記番号で、本文の後に注記をまとめてある。
同様の内容は同じ注記番号を使用した。
主に固有名詞や地域特有の言葉の意味や用法について、注記のページで解説してある。その他、特に注意しておきたい音声的特徴などにも使用したものもある。
例 : ムガシワ サンザンサ [1] エッタゲンド

【共通語訳部分】

- 。(句点) : ポーズがあり、意味的に1つのまとまりを持つ文の最後につけた。
- 、(読点) : 基本的に息をついた箇所またはポーズのある箇所に付してある。
読みやすさを重視して付した部分もある。
- ? : 疑問文であることがわかりにくい箇所に適宜使用する。
例 : チョー エギサ エッタナ。
今日 駅に 行ったの?

- () : あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。
 例：ソーヤッテ ムガシワネー (B ンダネー) ヤッタンダー。
 そうやって 昔はね (B そうだね) やったんだ。
- { } : 笑い声、咳払い、間などの非言語音。
 例：{笑} {咳} {手を叩く音}
- ×××× : 言い間違いや言いよどみなど、共通語訳ができない部分。
 例：ム ム ムツカシー
 × × 難しい
- ~~~~~ : 聞き取れず、共通語訳も不明な部分には波線を引いた。
 聞き取りが不十分で共通語訳も不十分な部分は該当箇所に下線を引いた。
 例：ツナミ ~~~~~ ネクテ
 津波 ~~~~~ なくて
- _____ : 発話が重なっている部分には、方言の部分に準じて下線を引いた。
 例：005 A : ハイ コイッテ イーベガネッスー。
 はい これで いい でしょうか
 006 B : アー ソイズダー。 モラッテクダサイ (A ソーダ)
あー それだー。 もらってください (A そうだ)
- ===== : 発話が重なっており、聞き取れない、または聞き取りが不十分であり、共通語訳も不明な部分には、方言の部分に準じて二重下線を引いた。
 例：ビョーギ _____ (B _____) シタンダ。
 病気 _____ (B _____) したんだ。
- ////// : 対応する共通語訳が不明な部分。
 できるだけ注記を入れるなどして、話の流れはわかるようにした。
 例：モーゼーノ モジナンデスナ。
 // // // // 文字なんですね。
- [] : 方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。
 例：ミカン ノセテ
 みかん [を] 乗せて
 ※ 意味の説明や意識にも使用した。その場合は「=」を付してある。
 例：イマ ユー
 今 いう [=今話題にあがった]